平成31年１月　市長定例記者会見

2019年１月４日(金)

午後１時30分　開始

【秘書広報課長補佐】　それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成31年１月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数でございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後はお切りいただきますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】　新年明けましておめでとうございます。皆様、輝かしい新年をお迎えになられましたことを心からお喜び申し上げます。また今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年でございますが、今年は元号が平成から新しい元号に変わる年でございます。そしてまた、敦賀市の港は120周年ということで記念の年でもございます。いのしし年ということで、８日にあります臨時会も含めまして精いっぱい時代を突き進んでいきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】　それでは、続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】　本日の事業発表は２つございます。

１つは、平成30年度１月補正予算の概要についてということで、別途資料をお配りしてございますが、今回の臨時会に提出いたします議案については、人道の港敦賀ムゼウムの整備に係る予算案であります。

当該予算は、先の定例会において修正可決により削除されたものであります。しかしながら、人道の港敦賀ムゼウムの移転、拡充は、北陸新幹線敦賀開業を見据えた本市の受け皿の拠点として必要不可欠な施設であることから、今回改めて整備に係る予算を計上したものであります。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

２つ目としまして、敦賀消防団の出初式の実施についてでございます。

消防団員の士気の高揚を図るとともに、消防装備、精練された消防団員の意気を公開することにより市民の防火意識を高めることを目的として、平成31年１月14日月曜日に新春恒例の出初式を挙行いたします。また、当日は、きらめきみなと館イベントホールにおきまして、敦賀消防団消防鳶隊「つるが鳶」によるはしご乗り演技を披露いたします。

事業等の発表は以上でございます。

【秘書広報課長補佐】　それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。

最初に、幹事社さんからよろしくお願いいたします。

【記者】　ムゼウムの予算のことで２点ほど。

一つは、今、必要不可欠な施設であることからというふうにご説明をいただきました。

ただ、前の議会を見ていると、施設そのものが今のままでもいいんじゃないかという反対の意見もありますし、どういうふうに必要不可欠なのかというあたりをもう少し具体的に、繰り返し説明いただいていることですけれども、再提案ということですので説明していただけますか。

【市長】　敦賀市は今、人道の港、そして優しい日本人がいた場所ということで発信していますが、杉原千畝の映画がありまして以来、入館者数がすごく増えておりまして、平成29年が一番多いんですけれども５万7,000人という数字を記録しております。これ以上の人たちに来ていただこうとしますと施設的には規模的に難しいというところまで迎えておりますので、これをさらに発展して修学旅行とか団体のお客様も含めたことができないかなということで、これを新しいことにして、そしてまた、敦賀の優しい日本人というテーマに沿って、日本全体以上に世界中にも広げていきたいと考えています。

【記者】　それともう一つ。今、優しい日本人というお話がありまして、新しく示していただいた収支の見通しを見ていると、公共の部分と観光の部分とを分けて試算を出すという形になっています。

観光の部分は観光の部分で、それはそれでいろんな試算があるんでしょうけれども、公共の部分で優しい日本人といったときに難しいのが、優しいというのが何を指すのかという話をきちっとしておかないと、歴史認識の話をするわけではないんですけれども、史実としてどうなのかというのをどこでどういうふうに詰めるのかというのがもう少し、今の計画だとちょっとわからない部分があって、資料館としての機能の部分というのをどういうふうに担保していって、有り体に言うと、優しい日本人というふうにおっしゃいましたけれども、日本の近代史を見ると、優しい日本人によって戦争というのが担われたわけですよね。そういう意味から言うと、どういうふうな条件のもとに優しい人が成立するのかという話を合わせてセットでしていかないと、多分それは成立しないんだろうなと思って聞いていたんですが、そのあたりの資料的な部分というか、資料館としての展示の部分というのは、今後、議論を深めていく場というのはどういうふうにつくっていこうというふうにお考えなのでしょうか。

【市長】　なかなか難しいお話で恐縮ですけれども。政治的にどうのこうのとかいう部分ではなくて、市民性として。日本人の本来持っている性格的に、戦争のときには厳しい態度をとったりということをしたかもしれないけれども、国民性、市民性とすると優しかったんだよと。要は、隣の人が困っていれば助けるみたいな、そういう世界で優しかったんだよということを発信できたらいいなということを考えています。

その中で、例えば、ユダヤ難民へのナチスによる迫害があって、その後、杉原千畝さんがいて、それから正義の人がいてその次にという感じじゃなくて、ただ単純に、逃げてきたのでかわいそうだったから助けたんだよと。そういう市民性、国民性があったんだよということを発信できたらいいなということを考えておりますので、余り難しいことは考えてございません。

【記者】　それで、市議会の議論を聞いていると２つありまして、一つは運営面で、やはり賛成されている方も議論を深めていく必要があると。多分、今回追加で説明された部分プラスアルファ、今後もどういうふうに運営していくかというのは、運営方式はこれからでしょうけれども、深めていく場が必要だと思いますし、今の展示の部分についても具体

的にどうしていくのかというのは、何か別に組織を設けてという形なんですか、それとも今示されているものでとりあえずは行くというふうなお考えなのでしょうか。
【市長】　今の施設がありますけれども、日本語の部分と英語の部分があって、英語の字とかは下にあったり小さかったりしますので、それをきちんと展示しようとすると、それだけでもスペースは大分広く要るのかなと思っておりますが、今後、ポーランド孤児なんかもありますから、そういうところの資料も集めていったり、またユダヤ難民につきましても資料が増えてきたりすると思いますので、そういうことで、優しさということを展示できるような施設にできたらいいなと思っています。
【副市長】　それから、運営につきましては、あくまで人道の港敦賀ムゼウムというのは、新幹線開業を見据えた交流人口の増加、観光客の増加というものを見据えて行っていくものなので、確かに運営費自体は直営にしたほうが一番赤字が少ないということでございますけれども、それで本当にいいのかどうか。やはり行政じゃなくて指定管理者の方が管理運営するということになれば、専門的な誘客の知識等もございますので、そういったことは今後さらに議論を深めていく必要があるかなと。
　まだ運営方式を決めるに当たっては時間に少し余裕がございますので、その間また内部で検討して、その上で、また議会とも相談させていただいて運営方式については決めていきたいというふうに考えております。
【記者】　ありがとうございます。
【秘書広報課長補佐】　続きまして、幹事社さん、よろしいですか。
　それでは、各社お伺いさせていただきます。発表項目につきましてご質問がありましたら挙手をよろしくお願いいたします。
【記者】ムゼウムに関してなんですけれども、この前、議会の修正可決を受けて見直された赤字圧縮の見直し案なんですけれども、これについて、この見直しで議会の理解は得られるというお考えなのかをまず１点お聞きしたいです。
【副市長】　12月議会で理解を得られる説明を私どもできませんでした。そのことは反省をいたしております。
　そうした中で、12月議会で問題になったのは、まず収支、それに伴って10万人の集客見込み、それとあわせまして市民の利益と申しますか便益と申しますか、この３点が中心であったかというふうに私ども理解しまして、それについて内部でプロジェクトチームを組んで検討した結果を27日にお示しさせていただいたということでございます。
　担当課だけではできないものですから、敦賀市役所の全知識と申しますか、そういうのを結集して示させていただいたのが27日に示させていただいた資料でございまして、ある程度数字的な根拠を示させていただいたものだと私どもでは考えておりまして、議会の議員の先生方も理解は相当程度深めていただいたのではないかなというふうに考えております。
【記者】　もう１点。今回の臨時会で出される予算案なんですけれども、前回削除された建設費等の予算額をそのまま計上しているということでよろしいですよね。12月定例会では、建設費、イニシャルコストに対して削減という意見もあったと思うんですけれども、圧縮というか。そういうことは検討されなかったのかということをお伺いしたいです。
【副市長】　イニシャルの圧縮につきましては、実施設計は相当進んでおるものですから

なかなか難しいかなということでございます。

そうした中で一部、例えばモニュメントとか削減できる部分もあるかもしれませんが、それは今後、実際に契約等をしていく中で検討したいと思っておりますし、また内装とか展示の債務負担でございますけれども、これにつきましても、先ほど来申し上げていますように、外観もさることながら中をどんなふうにして見せていくかということが今後の集客にも影響を与えるかなというふうに考えておりまして、同じ額を計上させていただいておりますが、それは今後、これも実際に発注していく中で圧縮していける部分があれば圧縮していきたいと思っておりますし、そうなった場合は、また当然議会にも説明は必要かなと考えております。

【記者】　前回の27日の全員協議会では、建設費に関しては、多分この予算の事前調査ということで議員から意見が出なかったと思われるんですけれども、この臨時議会では建設費に関しての直接的な意見が出てくると思うんですが、そこでもきちんと今のような説明を尽くせば理解はしてもらえるということでよろしいですか。

【副市長】　どのような質問が出てくるかというのはちょっとわかりませんけれども、27日の説明会でも建設費そのものについては余り出ませんでしたけれども、本会議で、例えば４棟を２棟にしてはどうかというようなご意見はございました。ただ、これは４棟全体で国の景観まちづくり刷新事業の採択を受けているものでございますし、また、スケジュールありきではないんですけれども、設計も相当進んでおるものですからなかなか難しいかなということで、またこれもご説明せざるを得ないなと思っていますし、もう一つの、先ほど言いましたように、内装部分については額は同じでございますけれども今後さらに検討を進めていく中で、一部見直しはあるかもしれませんが、今のところ債務負担、これは上限を決めるので、あくまで債務負担でございますので、そういった中でさらに検討して、また見直せる部分があれば相談させていただくこともあると思います。

現時点ではそういう状況でございます。

【記者】　１回パブリックコメントをかけていますよね。そのパブリックコメントの状態では、不勉強で済みません、もし違っていたらあれですけれども。その状態では、議会の要は最初に提案した状態でかかっているわけですよね。市民の人への説明という部分で言うと、議会には説明されていますし議場でも行われるんでしょうけれども、パブリックコメントという性質と市民に説明するということから言うと、追加で何かそういうものを説明していくということはどういうふうになるのでしょうか。

【産業経済部長】　パブリックコメントの結果報告ということで、こちらのほうも27日に資料としてご提出させていただきました。そのときにも自由意見もございましたので、そういったものも全部オープンにせよというところがございましたので、そういったものは全て今後、掲示板等、うちのホームページでオープンする予定をしてございます。

あと市民の意見というところでございますけれども、現在、金ケ崎周辺施設整備の策定委員会を１年かけて、いろんな市民団体の代表の方に入っていただいて、ムゼウムの拡張部会という部会も開いております。そういった資料も私どものホームページで全部オープンしておりますので、今回のパブリックコメントで市民の意見を聞くという形をとらせていただいたというところでございます。

【記者】　その聞かれた状態からは変わっているというか、説明自体の中身というか、よ

り詳しくなっているわけですよね。杓子定規な言い方をすると、パブリックコメントだけをと言う人は余りいないとは思いますけれども、市民の人に届けるという意味から言うと、パブコメ以前の状態の説明の資料で皆さん聞いているわけですよね。議会の議論なんかを多分聞いて、願わくば新聞を読んでいただいたらいいのかなと思いますけれども、そういうので触れていただくというのは当然そうですけれども、市側として追加で議会に説明したことなり、今度の臨時議会での議論、もしくはそれの前提となる情報というのはどういうふうに提供していくというお考えなんですか。

【市長】　施設は変わってないんだけれども、運営とか精査してきた分だけもう一回意見を聞いたらどうかというお話だと思うんですけれども、意見を聞くかどうかは別として、どこかのところでお知らせする、ホームページの中でとか、そういうことは必要になってくると思いますので。今までそこまで考えていないので、今後考えてみたいと思います。

【副市長】　27日の説明会のときにも申し上げたんですけれども、パブコメの中でも、運営費は税金だからなるべく支出するなというご意見とか、あるいは、ただ単に建物が並んでいるだけで往時の雰囲気が感じられないとか、そういうご意見がございましたので、そういったご意見に対しては、今回の資料とか、あるいは今回の議会での議論を踏まえた上で、また回答と申しますか、ホームページ上でこういう回答ですよというのを公表していく予定でございます。

【記者】　回答の段階で反映して、それを通じて。だから包括的な質問というか、データに影響しないというか、そもそも論の質問なんかもあるので、それは当然答えられると思いますし、それについて回答する場において、そういうのを通じて周知を図るという、そういう理解でいいですか。

【副市長】　はい。

【記者】　市長、これは一般的に市の新しい顔をつくるという話でございますので、こういう場合、ほかの自治体も恐らく数千万円程度の持ち出しをしながら顔をつくっていくんだと思うんですが、敦賀市の財政規模、非常に優良団体だと思っていますけれども、その中でこの費用というのは、それほど痛いものと僕は思わないけれども、市長、このあたりをどういうふうに説明される感じですか。大変痛いという説明が多いけれども本当に痛いのかなということはちょっと市民の間でも。

僕らは、数千万ぐらい出したって、しばらくやって早く顔をつくったほうがいいじゃないかという意見も聞かないことはないんです。期限があることですから。そこらをどういうふうに説明したらいいのかなと。思い切った発言を聞きたいなと思うんですが。

【市長】　応援のメッセージだと思うので、ありがたく思いますけれども。

議会も含めて二元代表制ですので、議会のご意見というのは貴重なご意見でございますから、そういう中で修正動議までかけられてということですので、やはりその部分についてはある程度考えていかなくてはいけないというふうに思っております。その中でご理解を深めながら何とか前へ進めていきたいというふうに考えております。

【記者】　市長、財政には責任を持つから任せてくださいよという、そういう話で理解しておいていいわけですね。

【市長】　財政につきましては、３年前と比べますとかなり良くなってきたということを思っていますが、この後、大型事業もありますので、議員の皆さんのそういう心配という

のもわからないわけではありませんから、できるだけ議論する中でベターを積み重ねていければというふうに思っています。
【記者】　わかりました。もう１点だけ。
　敦賀市が議論するにはちょっと金額の桁が違うのかなというふうに僕は感じているということを申し上げて質問を終わります。
　それともう１点。その関連なんですが、これは金ケ崎の一体整備ともかかわってくることだと思いますので。最近ちょっと市民の方から、天筒山の頂上の休憩所のドアが壊れちゃったんだけれども何とかならんものかという話があるんですが、市長、お耳に入っておられますでしょうか。
【市長】　見に行きました、壊れているのを。
【記者】　あれはもう一回やり直すのは難しいですか。
【市長】　かなり破損しているので、すぐに修理というのは難しいというふうに思っています。
【記者】　検討するみたいな話ですかね。
【市長】　どうやって使うかということになってくると思いますけれども、戸が必要なのか必要じゃないのかということも含めて、全部外してしまってもいいのかもしれませんし、しばらくあそこで様子を見ていようかなということを思っています。
【記者】　わかりました。あそこは利用者がかなり毎日、朝夕からお昼までいるので。
【市長】　ただ、戸が閉まっていないと嫌だという人は少ないと思うので。
　全部取っ払ったんです。危ないので。
【記者】　一回また考えてみてください。
【市長】　はい。また見に行きます。
【秘書広報課長補佐】　それでは、ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
　それでは次第の３番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さんから、ありましたらよろしくお願いいたします。
【記者】　新年ということでもありますので、まず、今年１年の市政に対する市長のご姿勢と、原発行政、今年の７月から、例えばもんじゅの炉心からの燃料取り出しを開始すると思うんですが、そこら辺の今後の思いというのがあればお聞かせください。
【市長】　市政全般でよろしいんですか。市政につきましては、今年４年目を迎えますので、４月以降も担わせていただけるのであれば、敦賀市再興プランを100％着手しましたので、それを進めていって見える形にしていきたい、ものにしていきたいというふうに思っています。
　原子力につきましては、もんじゅの取り出し、１日２本という体制まで来たそうなので、１月中どこまで取り出せるかということになろうかと思いますが、その後の工程については余り影響がないと聞いていますので、安全を第一に粛々とやっていただきたいというふうに思っておりまして、特に何もそこに私がかけるものは余りないかなと思っています。
【記者】　先ほどおっしゃった、その後の工程には特に影響がないというのは、何に対してのという意味ですか。１月中に100体が取り出せなかった場合、その後の工程には影響がないという意味ですか。
【市長】　１月中まで燃料取り出し作業を100本を目標にやるということを伺っています。

１月が終って２月になりますと、定検に入ってくるのでその作業が中断されるという中で、後工程がそれのために影響があるんじゃないですか、どんどん先送りになるんじゃないですかという懸念を持っているんですけれども、それに対しては影響がないということを報告に来ていただいてお話を聞いていますので、確認していますので。それについては一応信頼をして安心しているというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】　続きまして、同じく幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは、各社お伺いさせていただきます。ご質問がございましたら挙手をよろしくお願いいたします。

【記者】　全原協の会長としてのお答えをいただければなと思うんですが。昨年末、関西電力が使用済燃料の中間貯蔵の県外立地計画地点というのを明確に示せずに、事実上、先送りしたという形になったんですが、そこら前後して規制委員会が発電所内での乾式貯蔵を推進するという意見もあって、何かしら方向性として発電所内の乾式貯蔵が進んでいくような方向性も感じられるんですが、全原協の会長として、この方向性についてどう考えられるのかということをお伺いしたい。

【市長】　全原協の会長としてというと、なかなか皆さんの意見もありますので、集約していませんので答えにくいと思いますが、私の考えとしますと、規制委員会の委員長が乾式貯蔵は安全なんだよということをかなり明確におっしゃいましたので、プールにあるやつを敷地内の乾式で置くということに対しては、ある程度リスク的にというか、余りナーバスにならなくてもよくなってきたのかなと思っています。

ただ、乾式で置いた場合に、仮置きという話が中間貯蔵になってみたり永遠に置いてみたりという懸念がありますので、そこはしっかりと用心しながら進めていただく必要があると思いますので、今後の議論になるかというふうに思っています。

【記者】　仮に日本原電なりから乾式にしたいという話があったら容認するけれども、時期的なものは何年までにとか、そういう話になってくるということですか。

【市長】　敦賀の事情で言いますと、敦賀はプールが満杯じゃないんですよね。ですからそういうアプローチもありませんし、たらればの話になってしまうので何とも言えないですけれども、ほかの情勢から考えて一般的に考えるときには、サイト内に仮置きして、それが長期的なものではないというものがあれば、ある程度そういう議論が進むのかなということは考えます。

【記者】　ちょっと今の関連で、ある程度議論が進むのかというお話で、今のお話だと全原協の会長さんとしてはなかなか、いろんな自治体の意見があって難しいというお話でした。

ただ、原子力の今後を考えていく上では絶対直面する課題なわけですよね。それをどちらかの側だけ、例えば事業者の側だけがという話では多分解決しないと思うので、そういう意味で言うと、全原協の会長さんとして何かイニシアチブをとって進めていくというような、そういうようなお考えなのでしょうか、それとも議論をまだ深めていく段階だというふうにお考えなんですか。

【市長】　乾式貯蔵といいますと中間貯蔵の話にどうしてもつながっていきますので、中間貯蔵についてはいいですよという自治体がありませんから、その中ではなかなか乾式貯蔵の議論は進まないというふうに感じています。ただ、プールが満杯になって安全性を高

めるためにどうしたらいいのかという議論の中では、そういう乾式貯蔵もあり得るというような議論になってくるんじゃないかなということを考えています。

各立地によっては、原子力を誘致したんだけれども、当然私どもは更地にして返してくれるものだというふうに考えて、そういうお約束の中で進めておりますけれども、使用済燃料じゃなくて廃棄物として、放射性廃棄物としてのサイトとしての受け入れということを考えていらっしゃる自治体もあろうかと思いますので、その辺は議論が分かれてくると思います。それぞれの自治体をこうしましょうと私が指導していくべきものでもないというふうに考えていますので、それぞれのご判断の中でいろんな考え方が出てくるのかなというふうに思います。

【記者】　わかりました。ありがとうございます。

【記者】　教育長にお伺いしたいなと。年末にああいう不祥事がありまして、今年は、今日４日ですけれども、何かしら校長に対しての何かメッセージを送ったりとか何かあったんですか、今日は。

【教育長】　各学校の校長先生に対してということですか。

【記者】　ええ。どういう形でもいいんですけれども、何か対策をとられたのかなと思って。

【教育長】　以前、記者会見させていただいた後に校長会を開催いたしまして、従前も申しましたけれども、服務規律の確保、それから不祥事の未然防止ということにつきましては徹底していくようにということで校長には指示いたしました。

【記者】　校長会は何日に開かれたのですか。

【教育長】　27日でございます。新たに、まだ計画中なんですが、細部を詰めている最中なんですけれども、始まる前、つまり２学期後半が始まる前には校長先生方、さらには全ての先生方を対象に研修会を開催したいと考えております。

【記者】　今年は敦賀港開港120周年ということで、市長も再選されたという前提でもいいですけれども、この120周年を敦賀市としてどう受けとめて、例えば催しをやるとか、そういうのを検討されているか。言える範囲で結構ですけれども。

【産業経済部長】　開港120周年におきましては、国、あと福井県、そしてこの敦賀市。特に敦賀市の場合、産業経済部のところでいろいろ120周年に向けてのイベントに、やはり冠をつけて大々的に周知していこうという部分もございます。あとはいろいろ、全国的なそういった協議会の総会とかそういったところも少しこれから誘致というところも一つ決まっておりますし、そういったところで全ての、敦賀まつり、花火大会、いろんなところに120周年を題材として冠をつけて周知していきたいというふうに考えているところです。

ただ、やはりこれから当初予算、また補正予算というところで予算措置はまだやっておりませんので、今はまだそういった計画段階というところで検討しているところです。

【記者】　元に戻って、ムゼウムの話で一つだけ、済みません、追加で教えてください。

さっき財政負担の話が出ました。赤字、短期的な議論と長期的な議論と分けて考えないといけないと思うんです。赤字だからつくるなというのは非常に短期的な議論で、視野の狭い話だと思いますし、行政が場合によってはそういうものをつくらないといけないという局面があるということは理解しています。

ただ、一般の人から見てわかりにくいのは、赤字がわかっているものをどうしてつくる

のかというところの説明ですよね。その部分が、どうして必要なのかというのがもうちょっとよくわからないような気がするんです。ここをちゃんと説明しておかないと、これから先にどんどん税収が増えてという時代じゃないので、それでも必要なんだということをきちっと説明していくということをやっていかないといけないと思うんですけれども、そういう意味で言うと、ちょっと僕の理解が追いついていないだけかもしれないんですが、新幹線の効果ということを踏まえると、どういう長期的スパンの中でこれが赤字でもつくるんだという説明になるのかというところをちょっと教えてもらえますか。

【市長】　私の考え方になるんですけれども、今、日本の国は、観光立国日本ということで海外の方たちをいかにインバウンドしていくかということを考えていると思います。その中で敦賀市ちょうど新幹線が来ますので、海外の方たちも含めて敦賀の観光ということを考えるべきだというふうに考えています。

そのときに、わざわざ敦賀に来てくれるアイテム、観光資源として何があるのかと考えたときに、市民性というのが一つありますけれども、そういう優しく受け入れたストーリー的なものというのは非常に大事なものだというふうに考えています。ですから、日本が戦中戦後、国際貢献をしたという中で、なかなかない中で、ユダヤ難民とポーランド孤児を受け入れたまちで、しかも優しく接したよというのは非常にいい物語なのかなということを感じていまして、ちょうどポーランド孤児が来年、再来年と100周年になっていきますので、その機運とユダヤ難民の方、またユダヤ系アメリカ人の方とかイスラエルの方と、そのインバウンドの核となれる素材だというふうに考えています。

もう一つは、敦賀の歴史的な観光資源ということを考えたときに、たくさんあるんですね。両手に余るぐらいの観光資源がありますので、それをやっていこうとすると何のまちかわからないということになるだろうと。例えば、今年は松尾芭蕉、おくのほそ道330周年。じゃ、その次の年はどうするのとなったときに、なかなかそれを定着することは難しいんじゃないかなと。そうすると、敦賀に行ったときに何があるのといったら、何か親切らしいよと、そういうことと、もう一つはこういう記念館があるよということは非常に強い観光資源になるというふうに考えていますので、そこを特化して発信していきたいと。そうすると、国内だけでなくて国外にも発信できるものだというふうに考えています。

ですから、新幹線を降りた方たちが敦賀駅を降りたら、敦賀市内だけを回るんじゃなくて周りの近隣市町に行ってもらわなくてはいけないんですが、その中で敦賀は何をメインに見るんですかといったときに、その優しさとか人柄とかいうのを感じていただいて見ていただければというふうに考えています。

【記者】　単発のと言うと変ですけれども、単発のものよりは、ストーリー性なり歴史性というものが背景にあるので、より長い、持続的な効果という言葉がいいのかわかりませんけれども、そういうものが見込めるというふうなことですか。

【市長】　そうですね。観光一つを物にしようとすると10年ぐらいかかるというんですね、最低でも。10年間ずっとやり続けてやっと物になっていくというふうに伺ったことがありますので、しかもストーリー性が要るというと、毎年、年変わりにやってもそれは定着しないというふうに考えますので、そうすると、優しさというのをベースにして二層構造にして、優しさの中に、おくのほそ道とか大谷吉継公とか水戸烈士とか。水戸烈士にしても敦賀の人は優しくしたわけですし、芋がゆにつきましてもこちらでおもてなししたわけで

すから、そういうつながりになってくれば二層的な観光資源になっていくんじゃないかな。ただ、ベースのところが必要ですので今それをやっているというふうに考えています。

【記者】　赤字という話がどうしてもメインに来ていますけれども、そういう意味で言うと、長期的なスパンで見ると、それが赤なのかという話は変ですけれども、財政的にという意味じゃなくて、観光ということも含めた効果の中では回収ができるというふうな見込みということなのでしょうか。

【市長】　そうですね。さっき他の記者からもご指摘いただきましたけれども、運営費もそうですけれどもイニシャルコストもかかるんですね。国が半分を出していただけるということで非常にありがたいんですけれども、市もそこに投資するということですので、それに見合う経済効果は必ず見込んでいきたいというふうに考えています。

【記者】　ありがとうございます。

【副市長】　経済効果というのがなかなか見えにくい部分があります。はっきり言いまして。ただ、国も県も今出していますのは、１人当たりの観光消費額に観光客数を掛けるという。それで12月議会でも8,600万という数字を示させていただきましたが、それが信用できないということなんですね。

ですけれども、今はムゼウムだけでそういうのを出していますので、今後、民間の飲食、物販施設とかも誘致していく予定でございますし、また、県とも協議が必要でございますがミニＳＬも走らせていく。ムゼウムだけでもどうしても呼び込むことができなくても、今、赤レンガとかありますし、金ケ崎全体で人を呼び込んで滞在時間を長くして敦賀で消費していただくといいますか、その核となるのがムゼウムなんだということで整備を進めていきたいということですね。今市長が申し上げました優しさとか、そういったものもあわせながらＰＲしていってということでございます。この経済効果がなかなか見えにくいので、これがどうやってわかっていただけるかというのがなかなか難しいんですけれども。

ただ、そういうのがないと、どっと観光客が増えるか、そういうことでもしないとなかなか見えないんですけれども、やっぱり通常出す出し方でしか我々出せませんので。それも8,600万というのは10万人来た場合でございますけれども、一番小さな数字で申し上げていますので、県外客の消費額等は入らずに全部県内の日帰りで計算した数字ですので、余り過大に見積もってもあかんのかなと思って。だから、ある程度経済効果はあると思っているんですけれども、なかなか見えにくいというところがございます。

【市長】　観光客の皆さんが見えて、敦賀市民の皆さんがもうけるのかという話になってくるんですけれども、お店が一軒もないと１円も効果ないんですよね。ただ、お店があっていろんな物を買ってもらったら効果があるという形になろうかと思いますので。もともとの構想の中では、赤レンガ倉庫ができた次には民間の施設を誘導して物を売ったりとかレストランをしたりとか、そういうことが段取りとしてはあったんですけれども、今のままだとなかなか民間の施設は来ようとしない。今度、ムゼウムができたら来てくれるかもしれないと。そうすると、そこに賑わいができてお金が落ちるシステムが、要は観光資源になっていくんじゃないかなと。

何で観光に力を入れているかといいますと、敦賀というまちは原子力もありましたからサービス業とか宿泊業がすごく人数構成が多いですので、その人たちがどうやって生活していくのかと考えたときに、観光というのはすごく親和性が高いと思っていますので、そ

ういうシフトができたらいいなと思っています。その中で、どこかでもしゃべりましたけれども、国体のプレ大会でたくさんテントが来ていただいたり国体でもたくさんお店を出していただいて、出張って頑張れば金もうけができるよということを繰り返すうちに活性化するんじゃないかなと思っています。その中で神楽とか本町に新しい店舗もでき出しましたので、敦賀の可能性として商売人の方たちも感じている部分があると思いますので、ぜひ経済効果というのを高めていきたいと思っています。

【記者】　質問というわけじゃないんですが、多分、今のようなお話をずっとやりながら説明していかないと、結局、よくありますよね。僕の周りには人が来てないから失敗だったろうみたいな話に行ってしまうと思うんです。だから確かにこれは実感、はかったりするのはどの自治体でも難しいというお話だと思いますし、市民の方の満足感というのがついてこないと、どこまで行っても、幾らもうかっているんですという話になったとしても、事業としてはどうなんだろうという話が必ず出てくると思うんです。だから、今回もそうですけれども、賛成された議員の方、原案に賛成された方もおっしゃっていましたけれども、これから育てていくんだという意味で言うと、市側がどういうタイミングでどういう情報を出していって市民の方の満足感というのを一緒に高めていくかというのが一つの肝になると思われて、そういう意味で言うと、今回の議会も含めて、どういうふうに情報を出してというのは変ですけれども、提供していって、それをわかってもらうか。表面的に言うと赤字というのが非常に表に出ていますけれども、そこら辺をどう説明して説得していくかというのがある種問われているところだと思うので、そこについてはきっちり情報を出して説明をしてということをやってほしいと思います。

【記者】　これちょっと部署がどこなのかわからないんですけれども、市長にお伺いするのも恐縮な話なんですが、私、敦賀に以前勤務していましたころに桃太郎を観光資源にしようという話がちょっとあったなと思うんですけれども、氣比神宮の桃太郎を。あれは最近なくなったんですかね。もう二十数年前の話なんですが。

【産業経済部長】　氣比神宮の桃太郎伝説のことでしょうか。

私も地元の神楽の方に聞いたことはあるんですけれども、具体的にそれを使ってどうのというところまではまだ行ってないんじゃないかなと。

【記者】　お煎餅つくったりとか、何かそういうふうな。

【産業経済部長】　そうですね。具体的な商品とかそこまではまだ行ってない。

【記者】　もう全く消えてしまっているんですね、桃太郎は。

市長が選挙になったら桃太郎をしないといけないですかね。なったらですけれども。

【市長】　桃太郎は、氣比神宮にそういう桃の型取りがあったというふうに伺っているんですけれども、今、公文名の芋がゆのところにそれはあるそうです。ある方がお持ちになっていますけれども、特に桃太郎を何とかしようという話はないです。

ただ、私個人の話なので皆さん真面目に聞いたら損しますけれども、タマとか、川から流れてきたり海から流れてきて高貴な人が生まれるというのは朝鮮半島の昔の話の思想的にあるそうです。ですから、敦賀で桃太郎があるのは、朝鮮半島の流れの思想として高貴な人がそこで生まれるというのはあると思います。

ただ、岡山のほうでありますから、あちらのほうはちょっと難しい話だなと思いますけれども、猿とキジと犬を家来につけて行こうとすると、方角にすると西から南のほうに行

くので、敦賀から南のほうに行くと岡山に行くので、吉備という国をだんごにして、みんなに分けて与えるから一緒に来んかと供を連れて行ったというのはおもしろいストーリーだと思いますが、よくよく聞きますと桃太郎伝説は江戸時代にできたというお話なので、さかのぼって話しても仕方ないなということを思っていますが、どなたか記事にして、おもしろおかしくつくっていただけると非常にありがたいと思います。

【記者】　実は相当、二十数年前に盛り上がった時期がありまして、でも私が戻ってきますと全然、桃太郎のモの字も聞かなくなりましたのでどうなったのかなと。そういう興味でした。

【市長】　江戸時代にできたお話らしいです。

【記者】　今、多分、予算編成をやっていらっしゃると思うんですけれども、来年度の予算は今のところ骨格で組まれるおつもりですか、それとも政策予算を盛った形で組まれるおつもりですか。

【市長】　基本的には骨格予算でいきます。ただ、一部政策的な部分、継続と新規もちょっとだけあるかもしれません。どうしても６月になってしまうと間に合わないものがありますので、それについては当初で組ませていただく予定もしています。

【記者】　ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】　ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして１月の市長定例記者会見を終わります。

ありがとうございました。

午後２時２０分　終了